

定点把握疾患の届出状況(令和5年9月～令和6年2月)

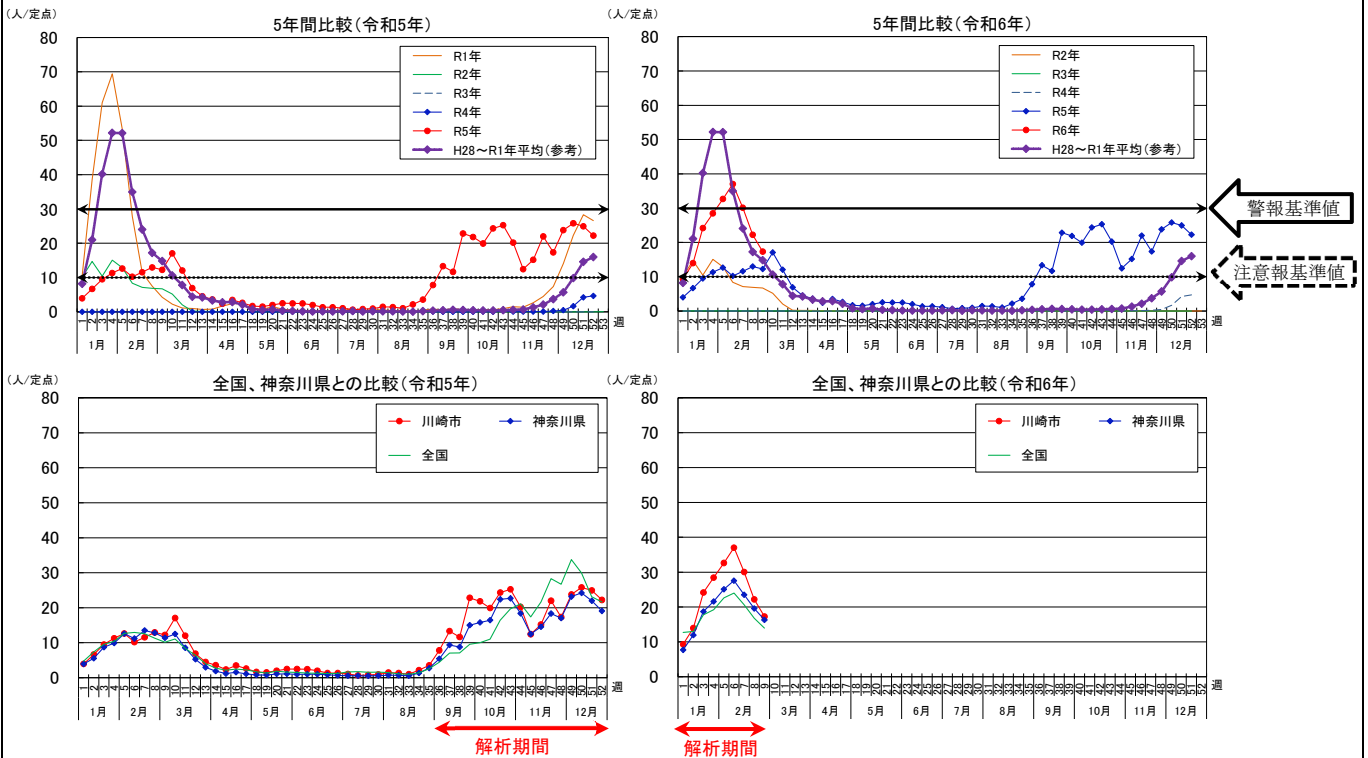
<インフルエンザ/COVID-19定点対象疾患>

※令和2年～令和4年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、報告数が著しく減少したため、平成28年から令和元年の平均と比較を行った。

インフルエンザ(警報基準値:定点当たり30人、注意報基準値:定点当たり10人)

【川崎市】

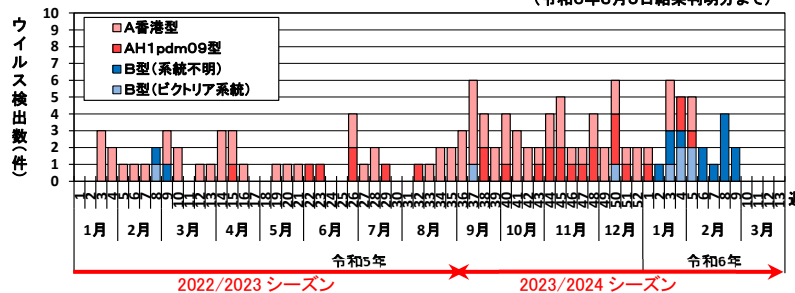
今期(令和5年9月～令和6年2月)は定点当たり20.99人の報告があり、過去5年平均の報告数と比較すると1.89倍で、例年より高いレベルで推移しました。2023/2024シーズンは、前シーズンから流行期が継続したまま令和5年第37週(9月11日～9月17日)に定点当たり患者報告数が13.31人となり、流行発生注意報基準値(定点当たり10.00人)を超えました。その後、令和6年第5週(1月29日～2月4日)には定点当たり32.67人となり、5シーズンぶりに流行発生警報基準値(定点当たり30.00人)を超えました。



なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。2023/2024シーズンはA香港型が43件、AH1pdm09型が20件、B型(系統不明)が13件、B型(ビクトリア系統)が7件検出されました。

血清型別インフルエンザウイルス検出状況

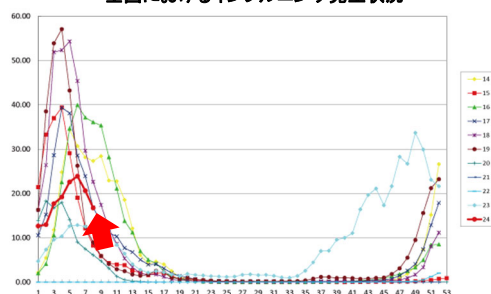
(令和6年3月5日結果判明まで)



【全国及びその他】

全国的にも例年より高いレベルで推移しました。

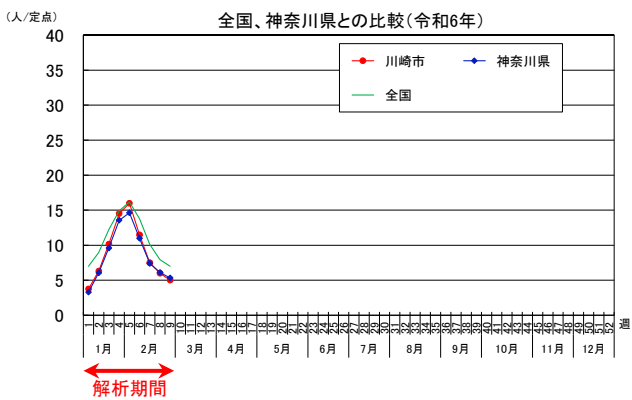
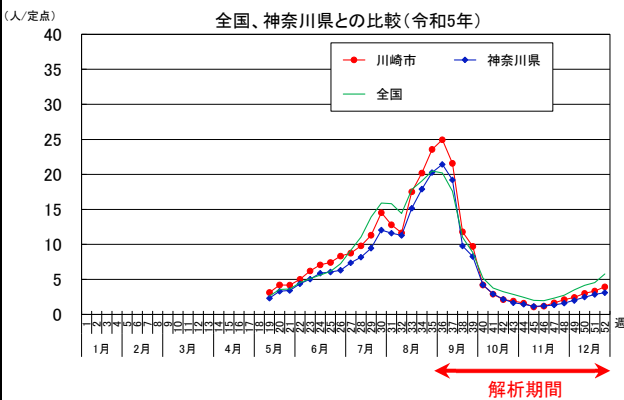
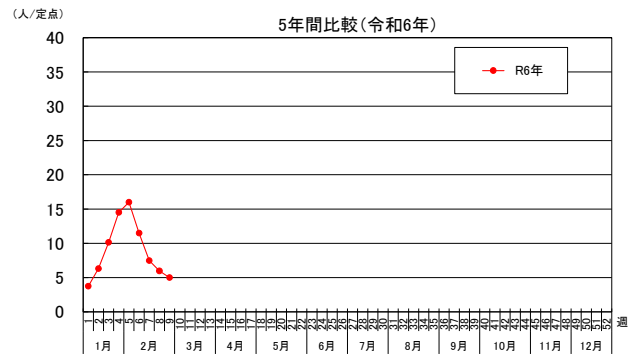
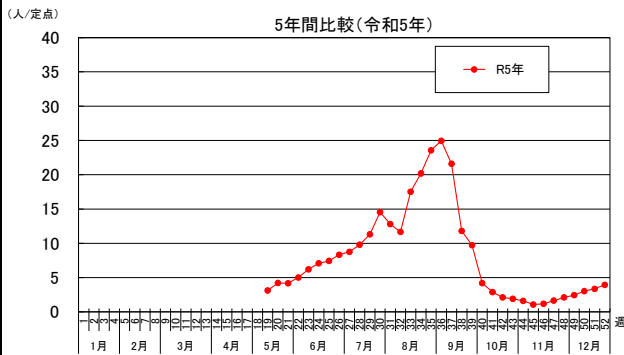
全国におけるインフルエンザ発生状況



新型コロナウイルス感染症

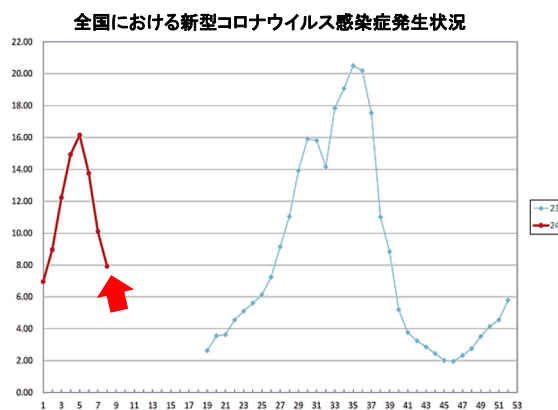
【川崎市】

今期は定点当たり 6.92 人の報告がありました。令和 5 年第 46 週（11 月 13 日～19 日）以降報告数が増加し、令和 6 年第 5 週（1 月 29 日～2 月 4 日）に定点当たり 15.98 人となった後、減少しました。



【全国及びその他】

全国的にも 11 月下旬以降増加し、2 月上旬をピークに減少しました。

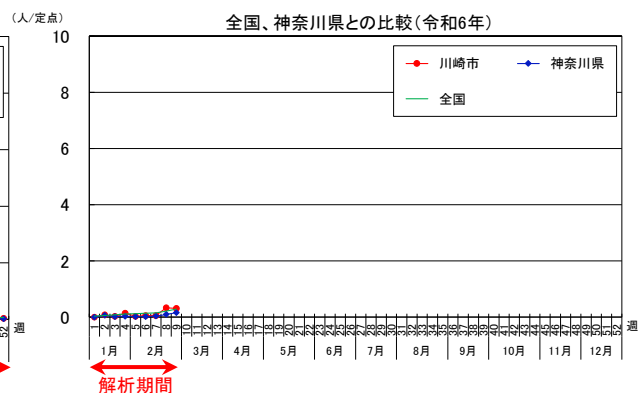
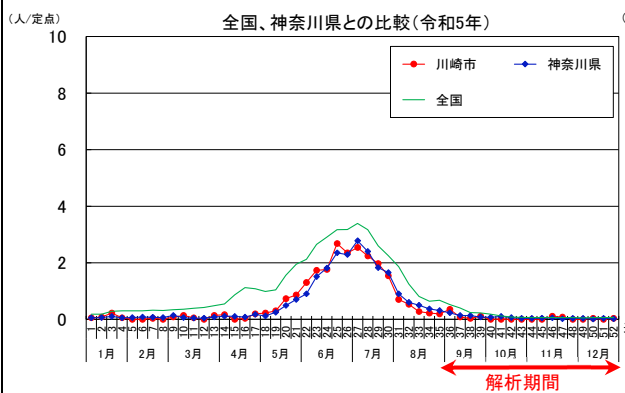
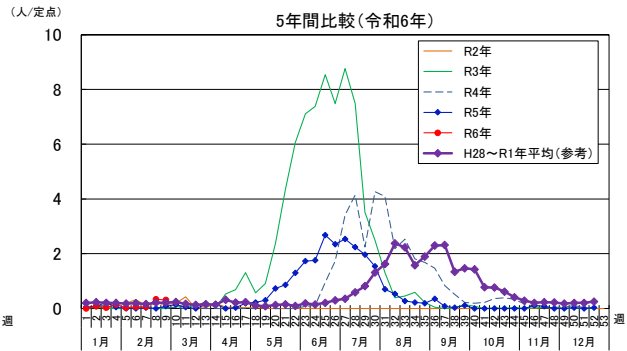
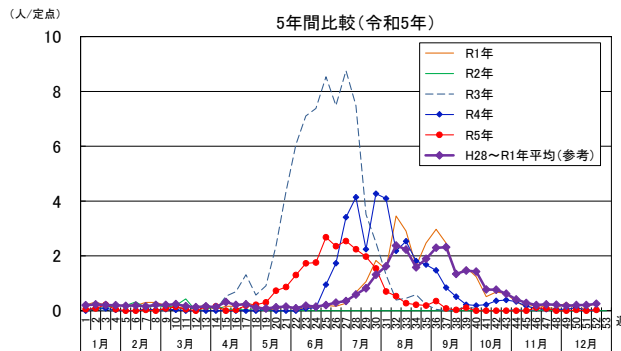


<小児科定点対象疾患>

RSウイルス感染症

【川崎市】

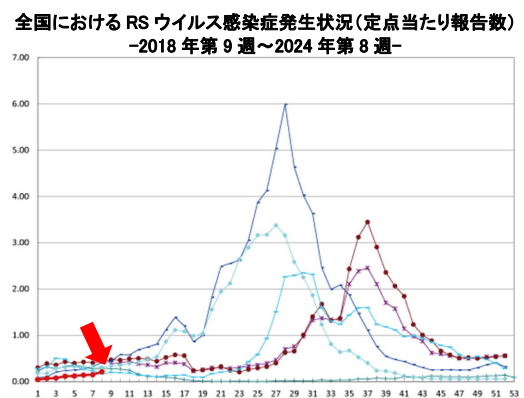
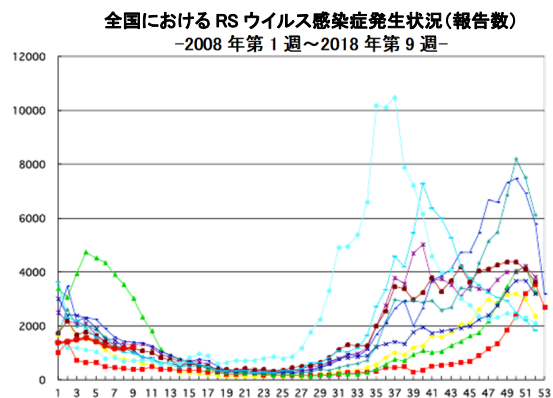
今期は定点当たり 0.07 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.12 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。



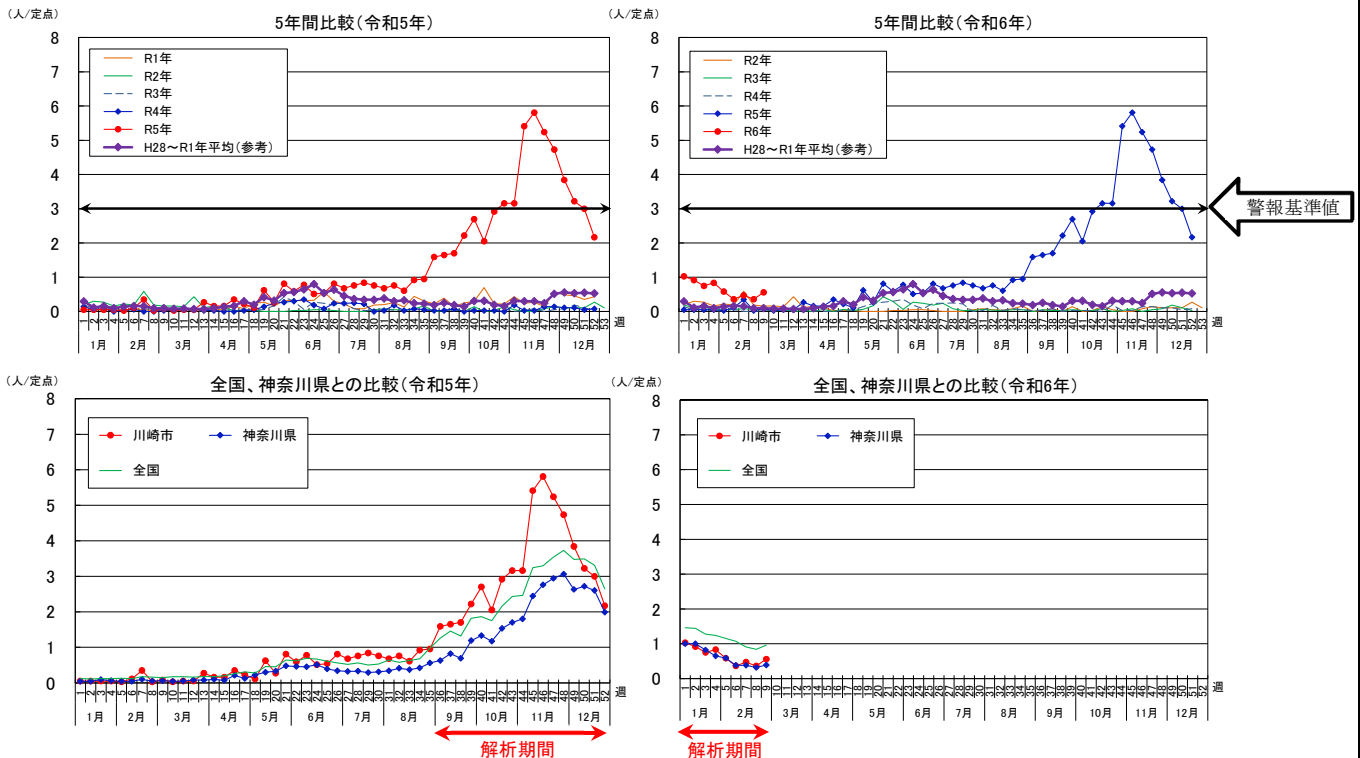
※2018年9週(2月26日～3月4日)から、国立感染症研究所におけるRSウイルス感染症の集計方法が変更となりました。(報告数→定点当たり報告数)

咽頭結膜熱(警報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は定点当たり 2.34 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 8.75 倍で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。令和 5 年第 34 週 (8 月 21 日～8 月 27 日) 以降報告数が増加し、第 43 週 (10 月 23 日～10 月 29 日) には定点当たり患者報告数が 3.16 人となり、平成 18 年以来 17 年ぶりに流行発生警報基準値を超えました。第 46 週 (11 月 13 日～11 月 19 日) に流行のピーク (定点当たり 5.81 人) となった後、報告数は減少しました。

今期、流行発生警報基準値 (3) 以上となった週は、川崎区で第 45 週～第 49 週、幸区で第 42 週及び第 44 週～第 47 週、中原区で第 39 週～第 52 週、高津区で第 43 週、第 44 週及び第 46 週、宮前区で第 36 週～第 1 週、多摩区で第 47 週、麻生区で第 45 週、第 46 週及び第 49 週でした。



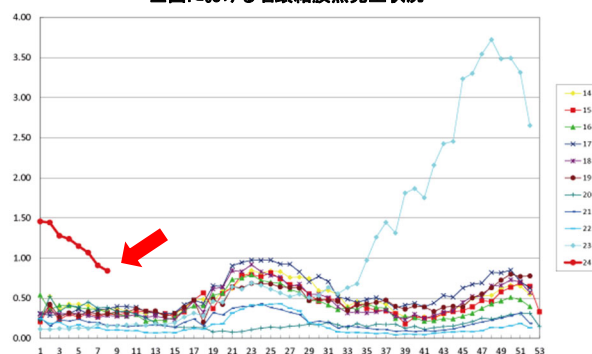
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
高津区	男	8	R5.10.5	咽頭ぬぐい液	アデノウイルス 3 型
高津区	男	6	R5.11.16	咽頭ぬぐい液	アデノウイルス 3 型
中原区	女	3	R5.11.28	鼻咽頭ぬぐい液	アデノウイルス 3 型
中原区	男	1	R5.12.5	鼻咽頭ぬぐい液	アデノウイルス 3 型

【全国及びその他】

全国的には例年よりかなり高いレベルで推移しました。

全国における咽頭結膜熱発生状況

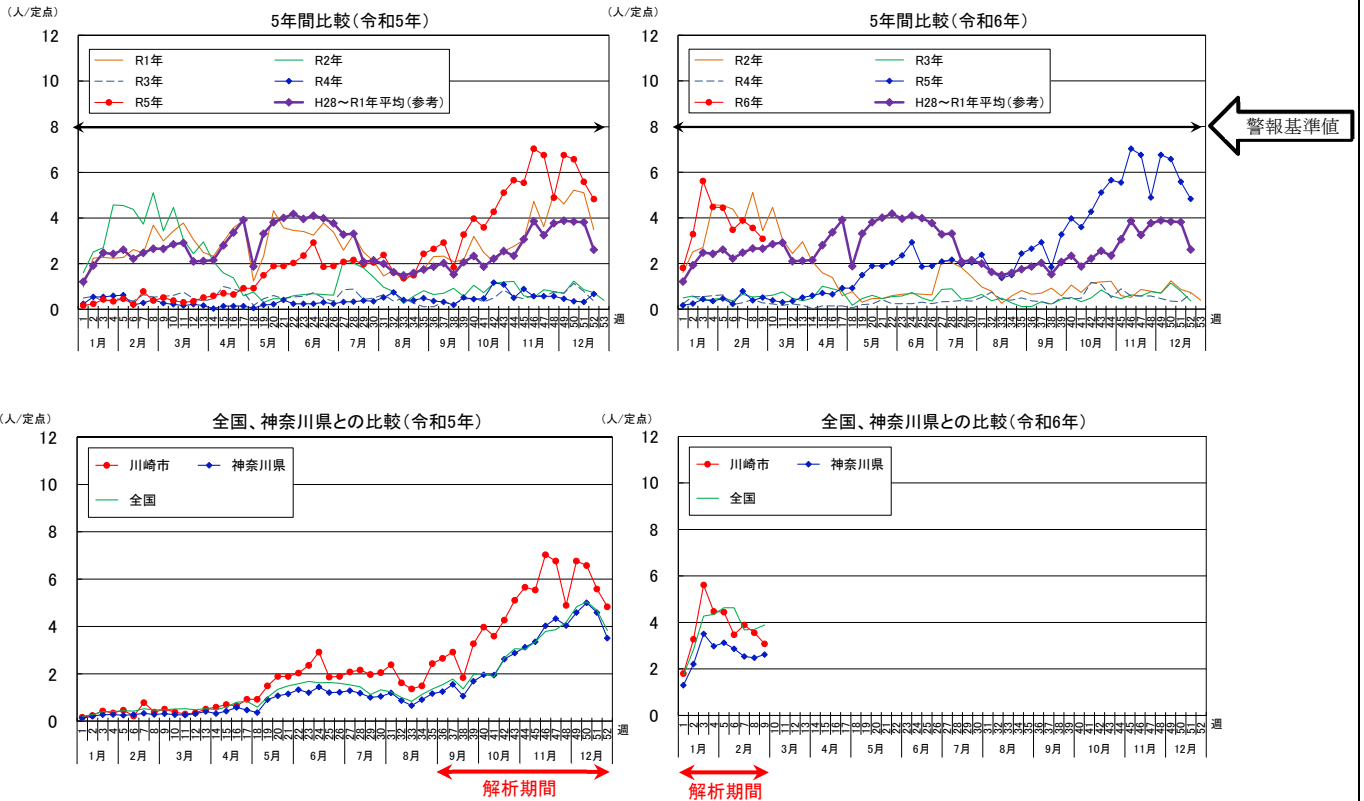


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は定点当たり 4.42 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.65 倍で、例年より高いレベルで推移しました。令和 5 年第 36 週 (9 月 4 日～9 月 10 日) 以降患者報告数が増加し、第 46 週 (11 月 13 日～11 月 19 日) に流行のピーク (定点当たり 7.03 人) となりました。

今期、流行発生警報基準値 (8) 以上となった週は、川崎区で第 46 週、第 52 週及び第 9 週、幸区で第 46 週、第 49 週及び第 50 週、高津区で第 49 週、第 51 週、第 3 週、第 5 週及び第 8 週、宮前区で第 40 週～第 47 週及び第 49 週～第 51 週、多摩区で第 45 週及び第 47 週、麻生区で第 4 週でした。

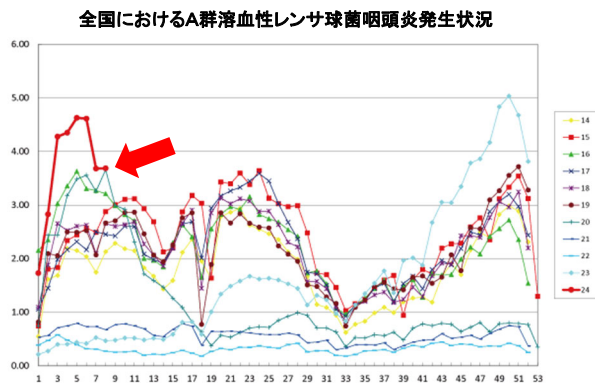


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
宮前区	女	8	R5.11.24	咽頭ぬぐい液	陰性
中原区	女	5	R5.11.28	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T12
中原区	女	4	R6.1.24	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T1

【全国及びその他】

全国的には例年よりかなり高いレベルで推移しました。

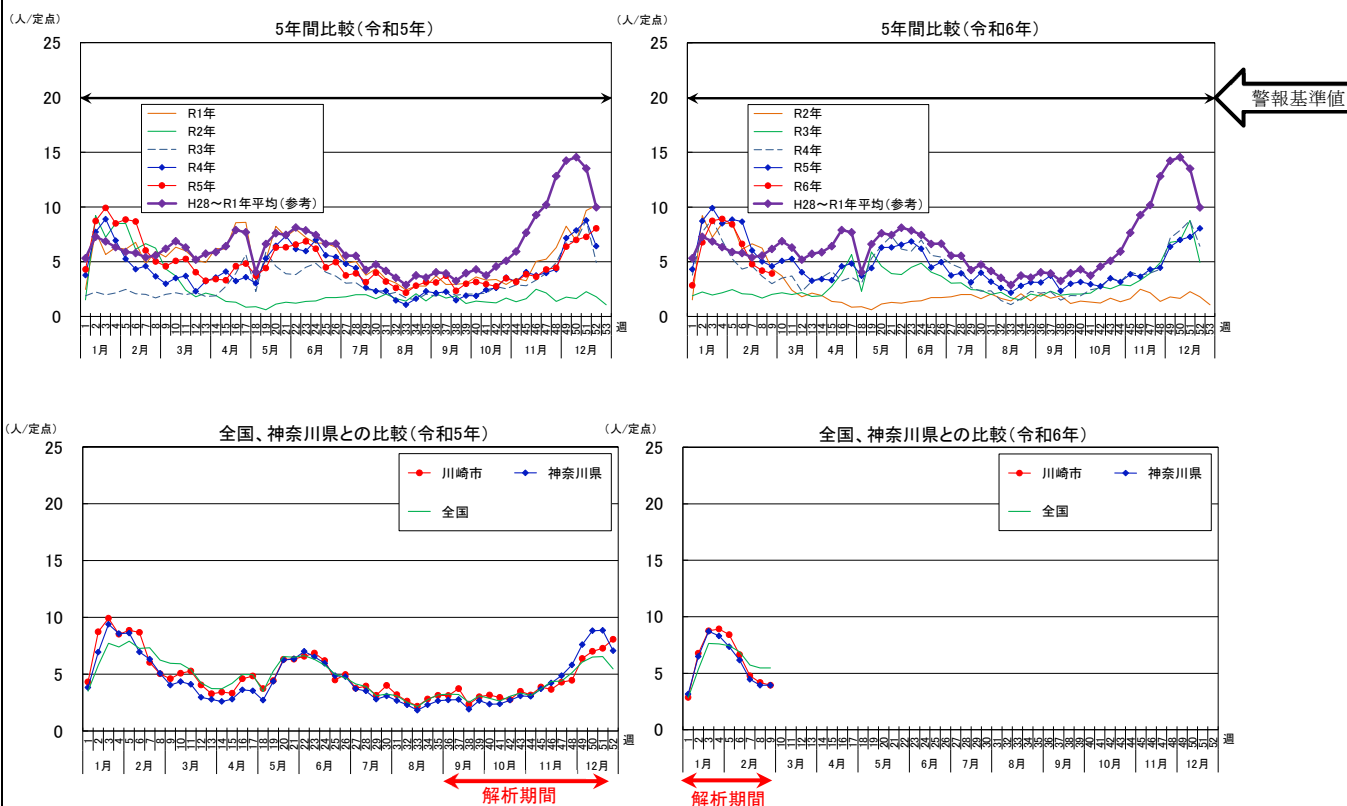


感染性胃腸炎(警報基準値: 定点当たり 20 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 4.90 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.70 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値以上となった週はありませんでした。



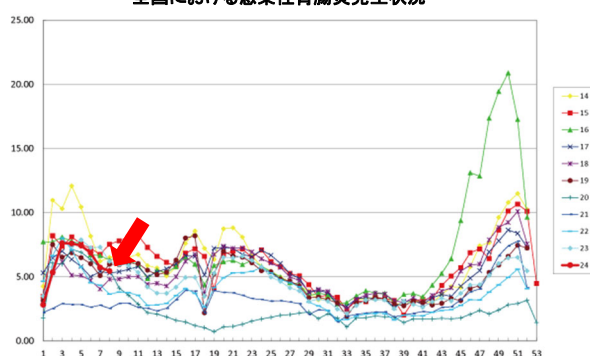
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果(ウイルス)	検査結果(細菌)
高津区	男	9	R5.12.7	便	ノロウイルス G II.2	陰性
幸区	男	7	R6.1.29	直腸ぬぐい液	陰性	陰性
幸区	女	13	R6.2.2	直腸ぬぐい液	ノロウイルス G II.4	陰性

【全国及びその他】

全国的には例年並みのレベルで推移しました。

全国における感染性胃腸炎発生状況

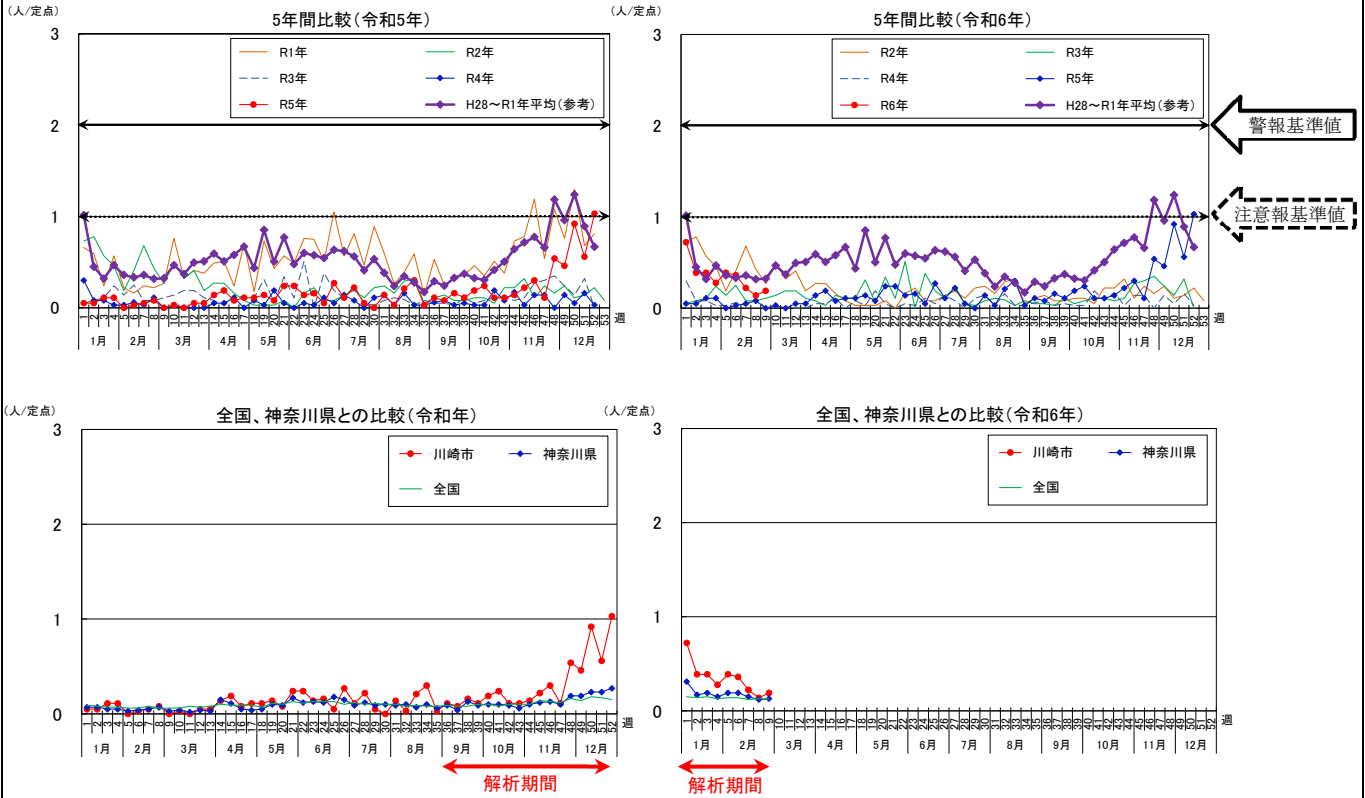


水痘(警報基準値:定点当たり2人、注意報基準値:定点当たり1人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.32 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.56 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。令和 5 年第 48 週から令和 6 年第 1 週にかけて患者報告数がやや増加しましたが、その後は減少しました。

今期、流行発生警報基準値以上となった週は、宮前区で第 49 週～第 2 週でした。

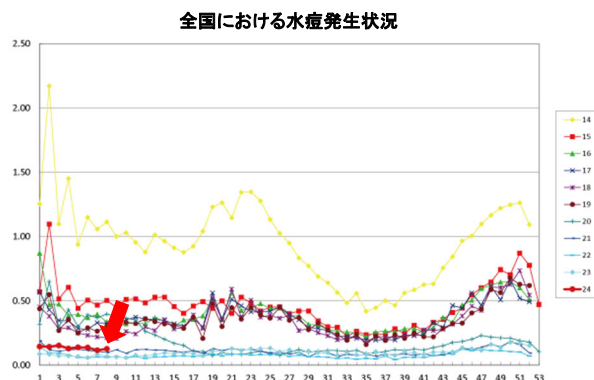


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
宮前区	男	8	R5.10.2	咽頭ぬぐい液	水痘・带状疱疹ウイルス ヒトヘルペスウイルス7型

【全国及びその他】

全国的には例年よりかなり低いレベルで推移しました。

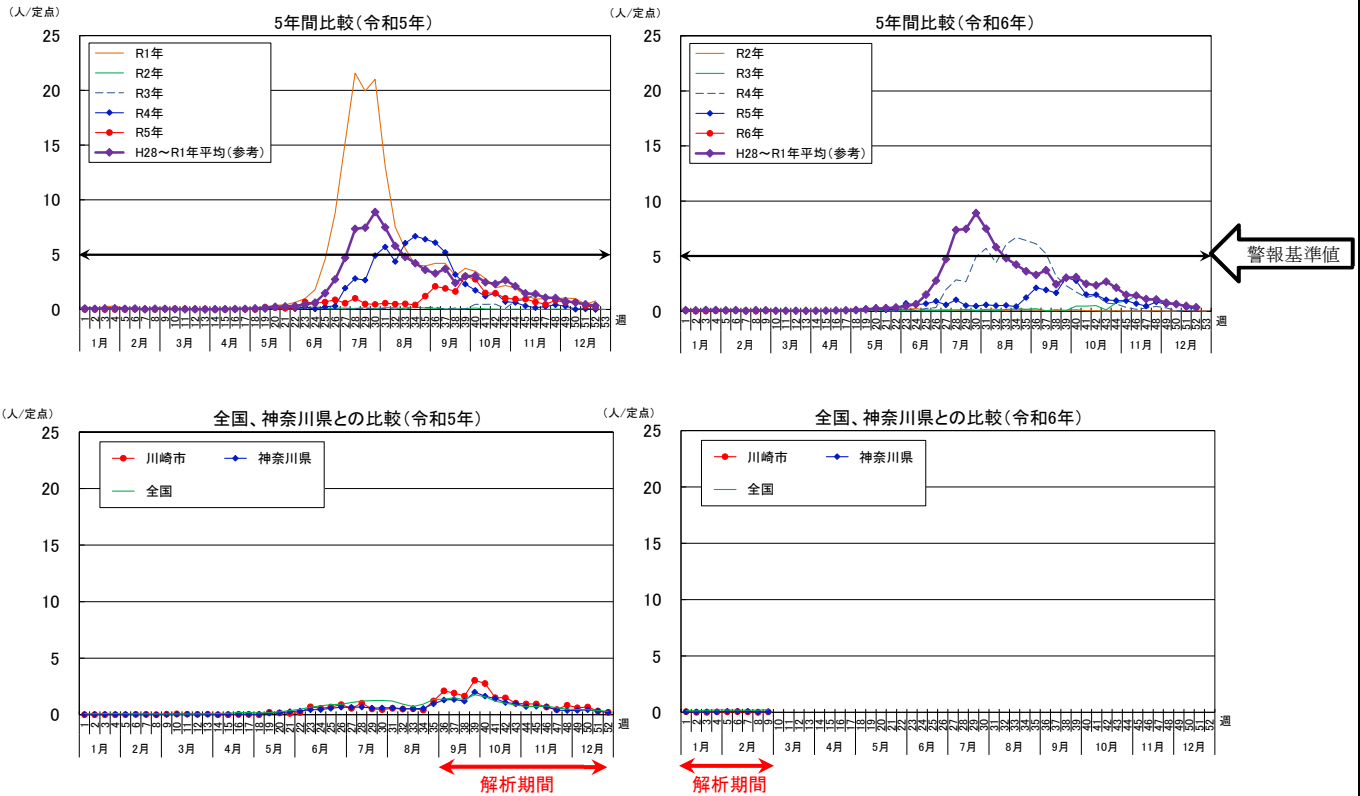


手足口病(警報基準値:定点当たり5人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.83 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.65 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値以上となった週は、多摩区で第 39 週でした。

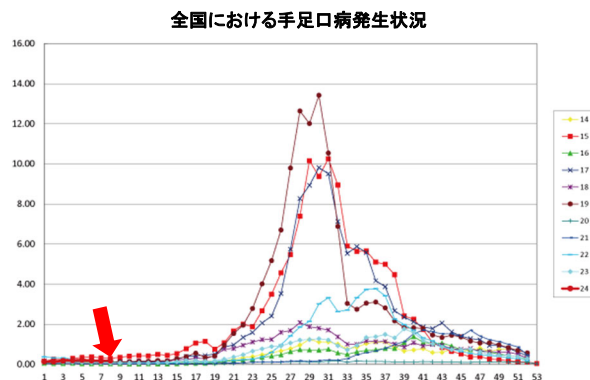


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	女	4	R5.9.25	咽頭ぬぐい液	陰性
高津区	男	4	R5.11.2	咽頭ぬぐい液	エンテロウイルス A71
高津区	女	10	R5.11.2	咽頭ぬぐい液	陰性
宮前区	男	4	R5.11.20	咽頭ぬぐい液	コクサッキーウイルス A16

【全国及びその他】

全国的には例年並みのレベルで推移しました。

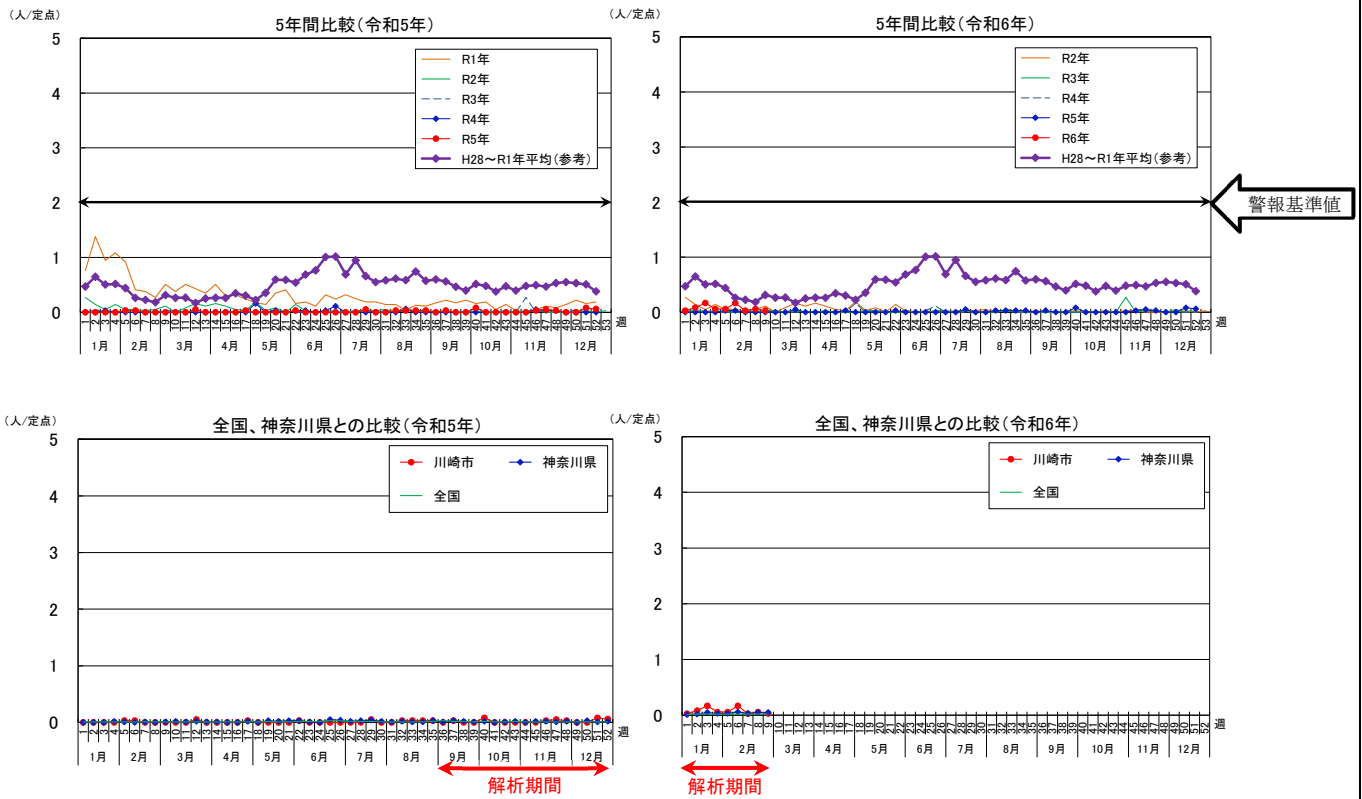


伝染性紅斑(警報基準値:定点当たり2人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.04 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.09 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値以上となった週はありませんでした。

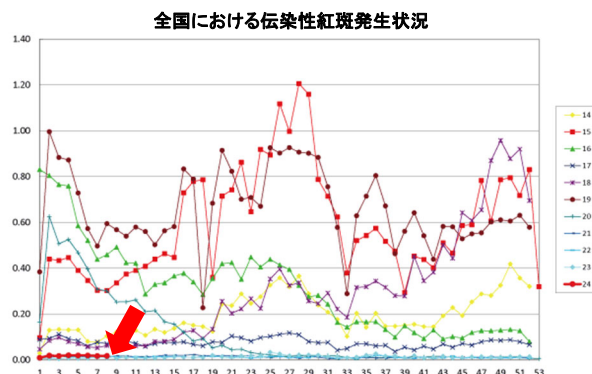


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	男	5	R5.11.21	咽頭ぬぐい液	ヒトヘルペスウイルス7型

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。

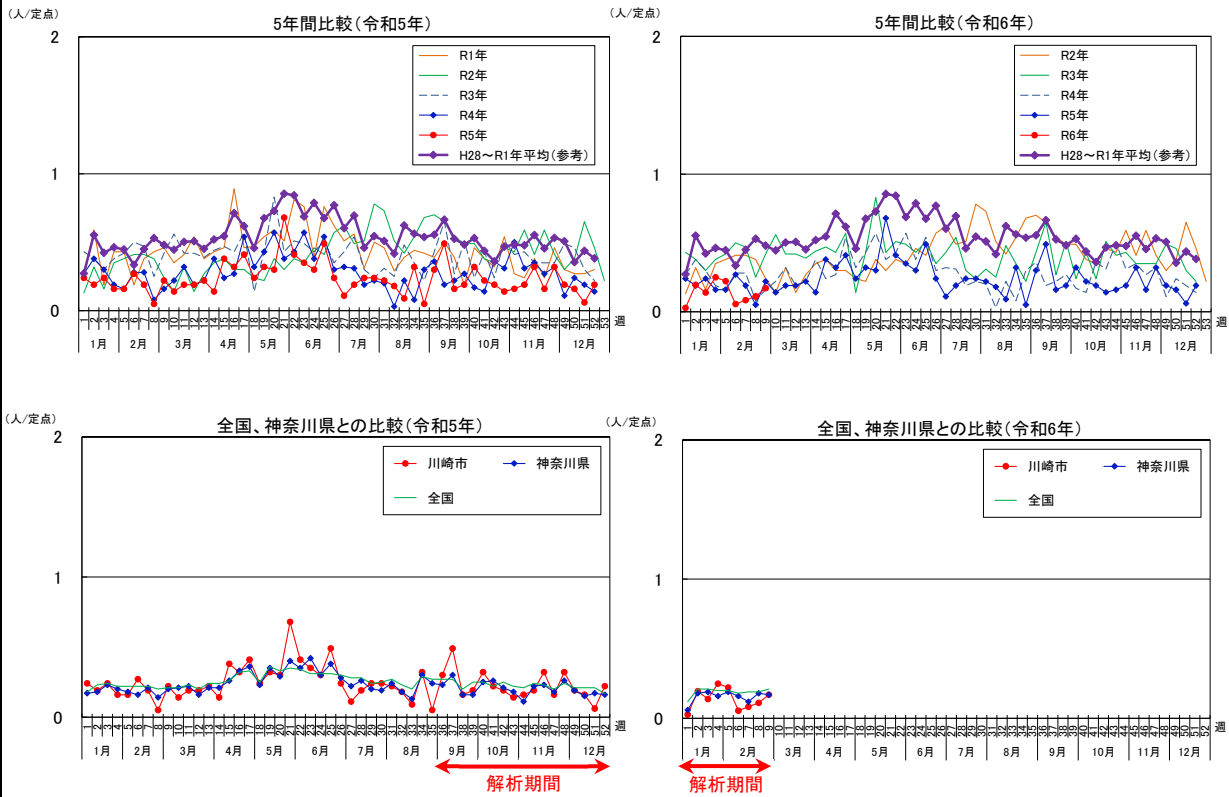


突発性発しん

【川崎市】

今期は定点当たり 0.19 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.42 倍で、例年より低いレベルで推移しました。

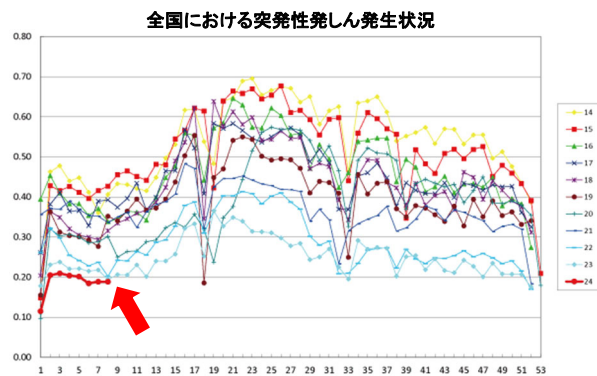
また、年齢階級別では 1 歳以下が 76.1%を占めていました。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

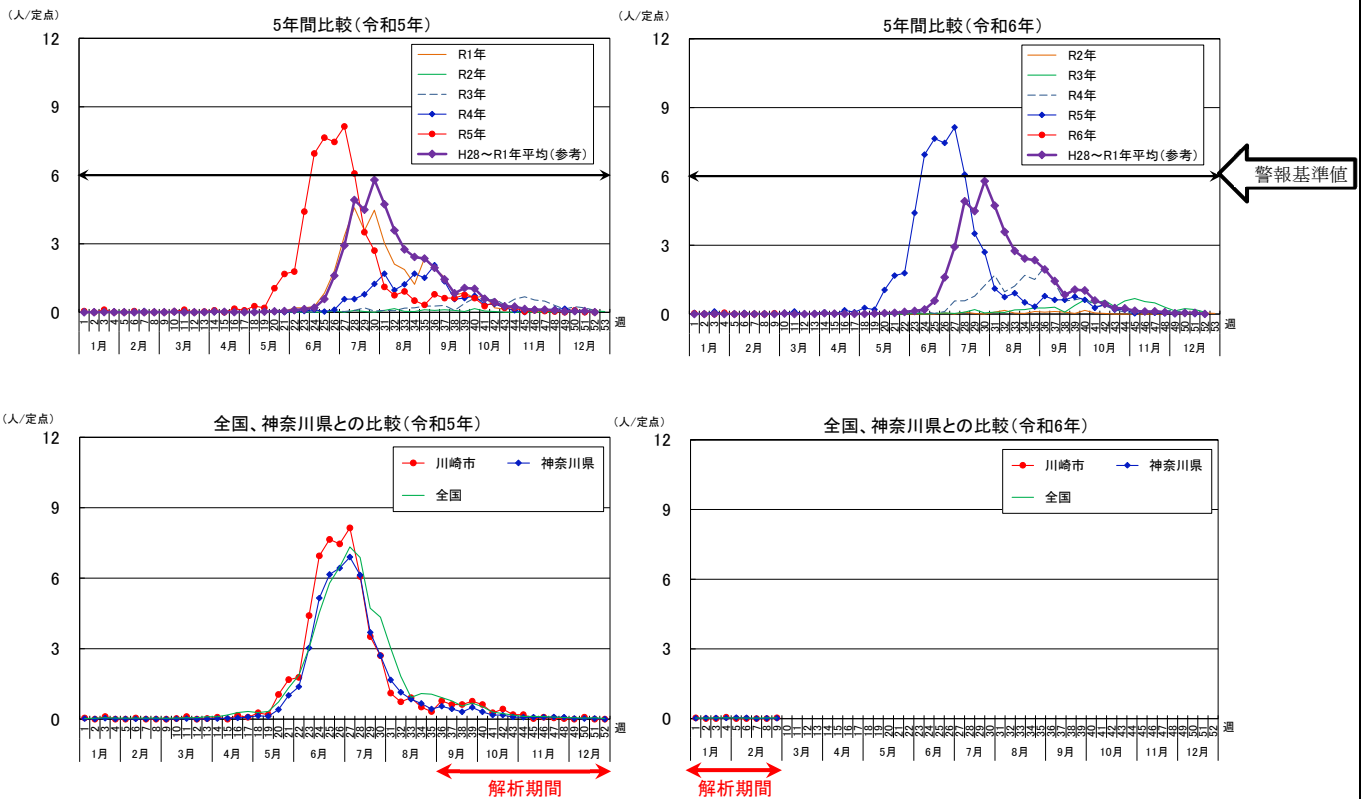


ヘルパンギーナ(警報基準値:定点当たり6人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.19 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.58 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。

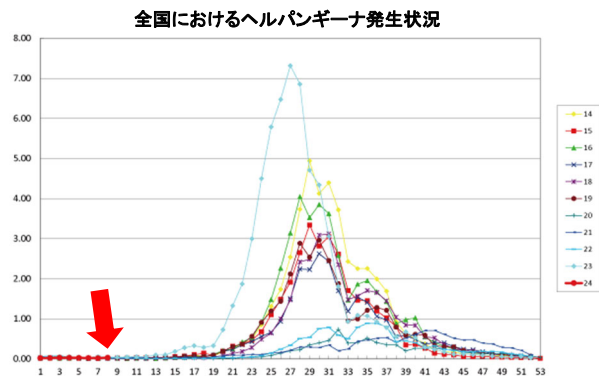
今期、流行発生警報基準値以上となった週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりやや低いレベルで推移しました。

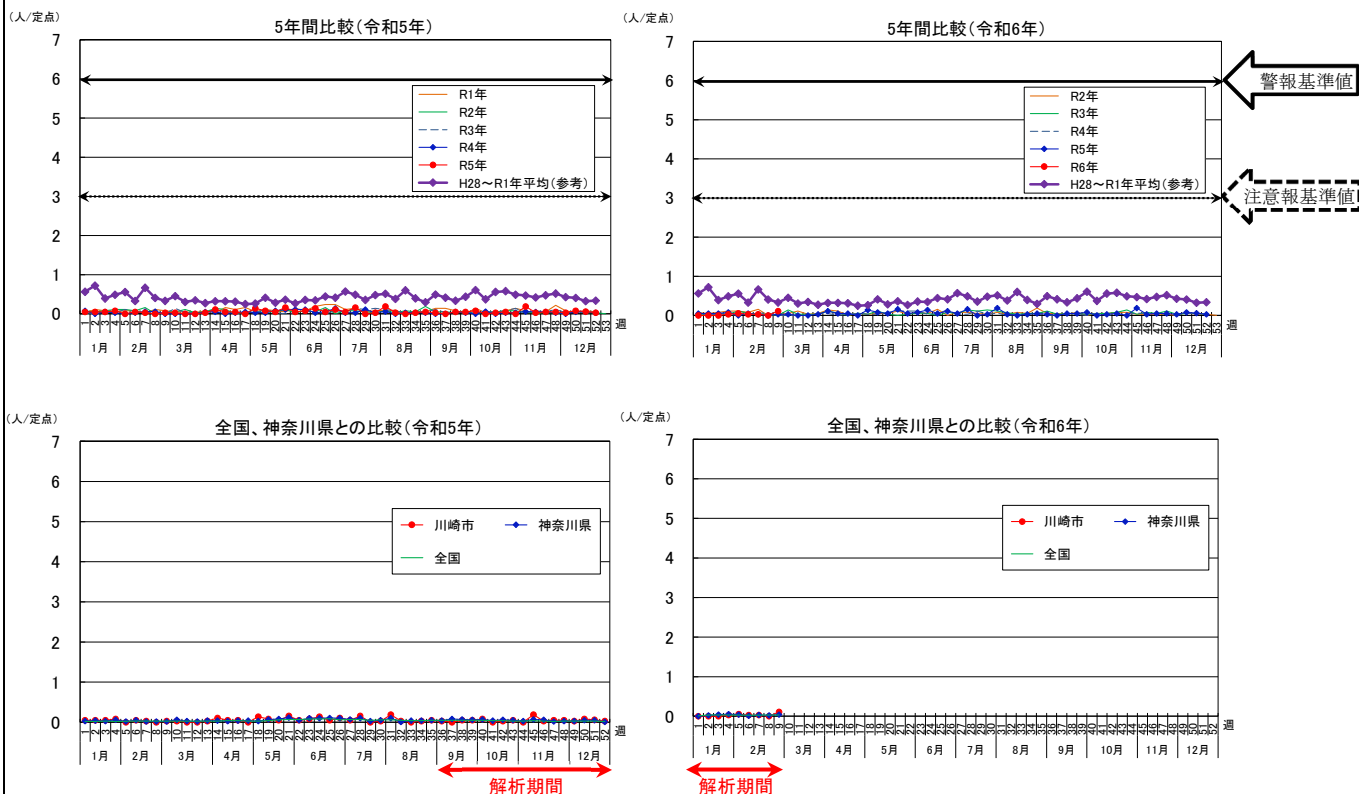


流行性耳下腺炎(警報基準値:定点当たり6人、注意報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は定点当たり0.04人の報告があり、過去5年平均の報告数と比較すると0.10倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

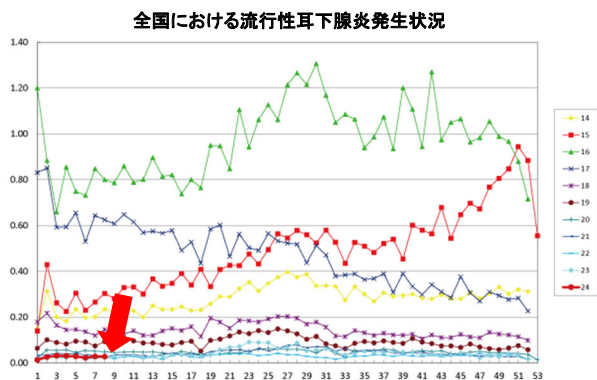
今期、流行発生注意報基準値以上となった週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。



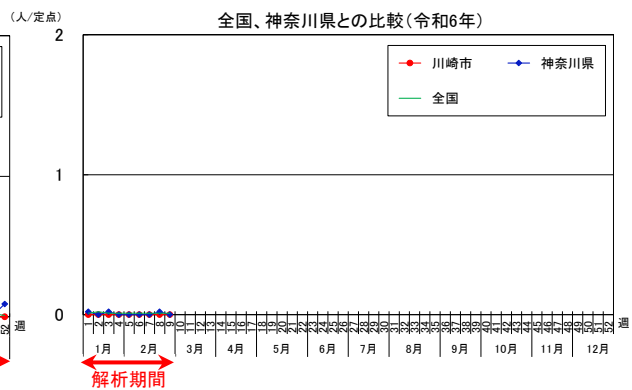
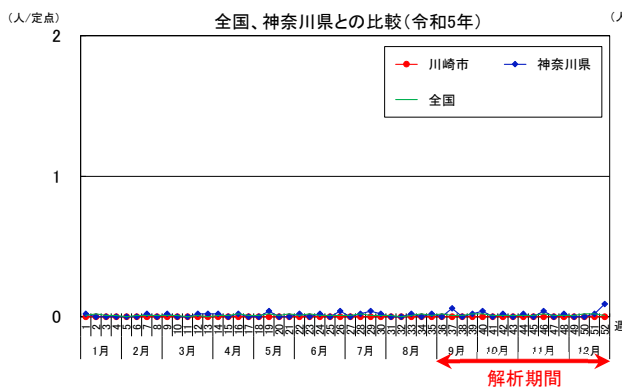
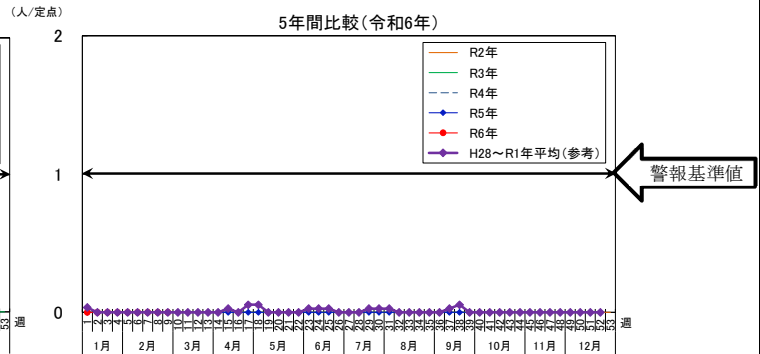
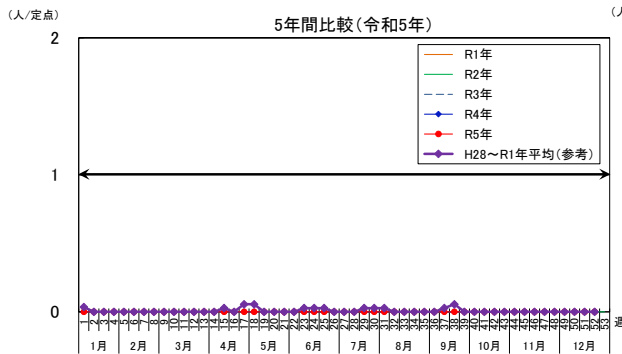
<眼科定点対象疾患>

※令和2年から令和4年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、報告数が著しく減少したため、平成28年から令和元年の平均と比較を行った。

急性出血性結膜炎(警報基準値: 定点当たり1人)

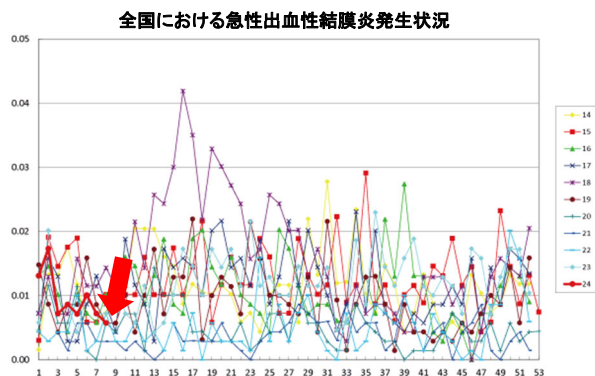
【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。

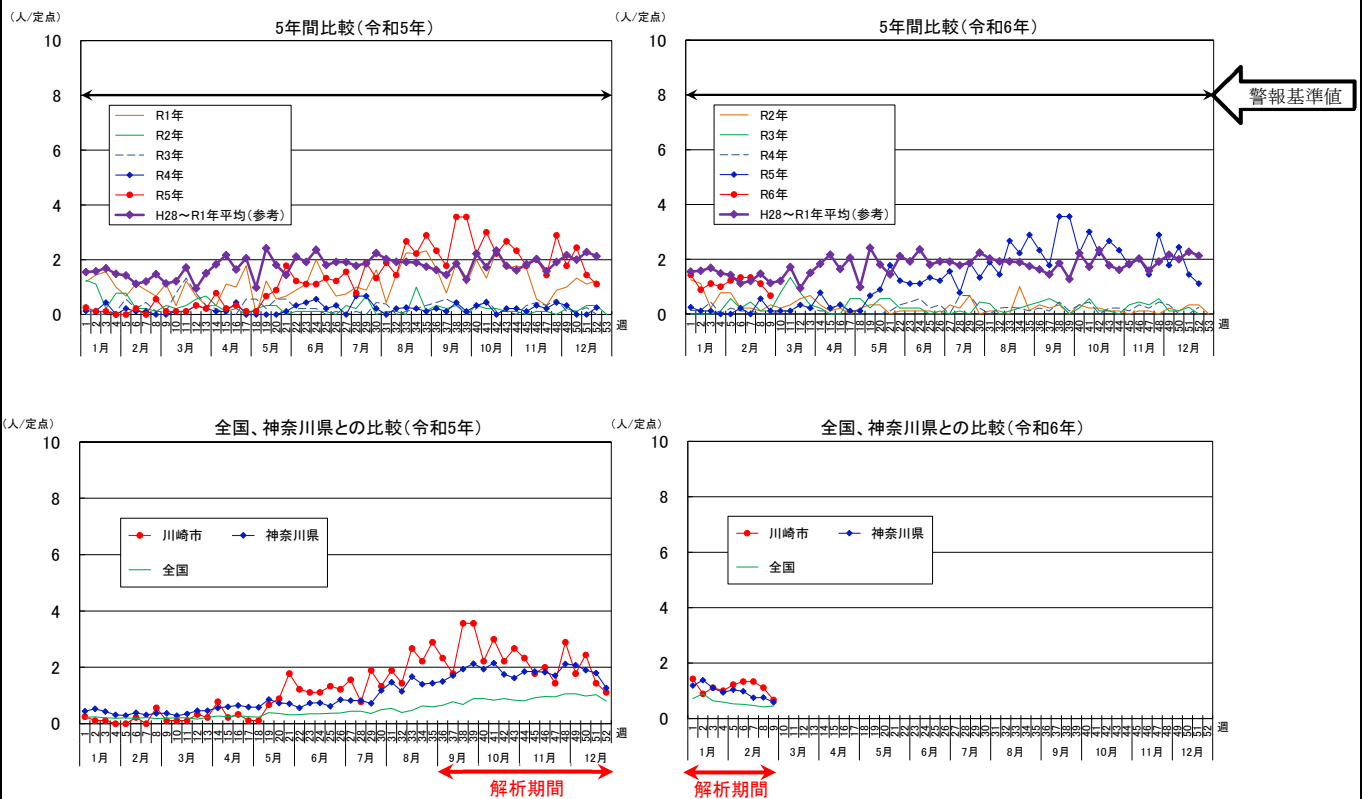


流行性角結膜炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は定点当たり 1.88 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.13 倍で、例年並みのレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値以上となった週は、中原区で第 36 週及び第 39 週でした。



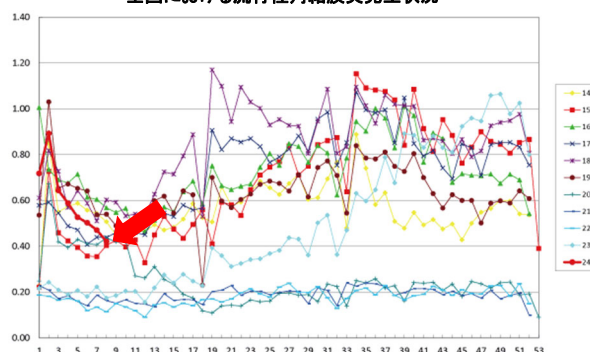
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	女	47	R5.9.19	眼脂	アデノウイルス 54 型
川崎区	男	10	R5.9.19	眼脂	アデノウイルス 54 型
川崎区	男	36	R5.11.13	眼脂	アデノウイルス 3 型
川崎区	女	45	R5.11.14	眼脂	陰性
川崎区	女	39	R5.12.3	眼脂	アデノウイルス 3 型
川崎区	男	8	R5.12.24	眼脂	アデノウイルス 3 型
川崎区	女	25	R5.12.26	眼脂	アデノウイルス 3 型

【全国及びその他】

全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。

全国における流行性角結膜炎発生状況



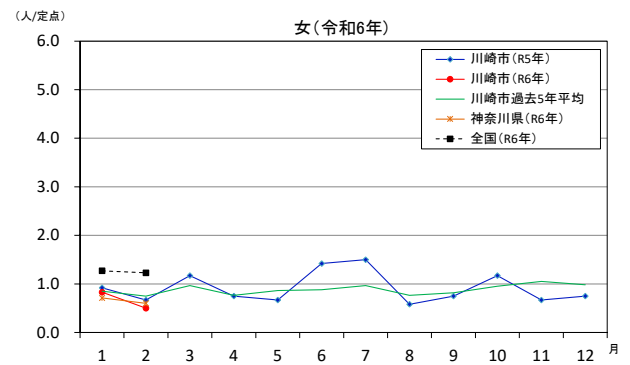
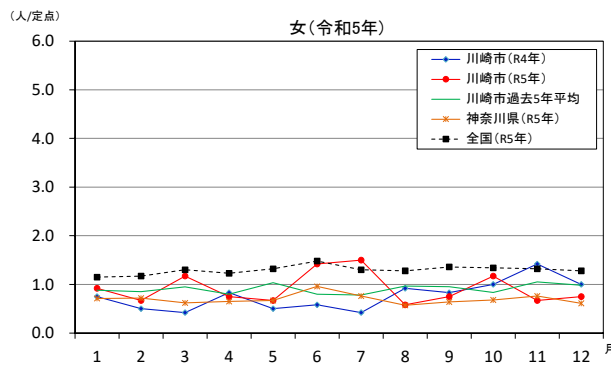
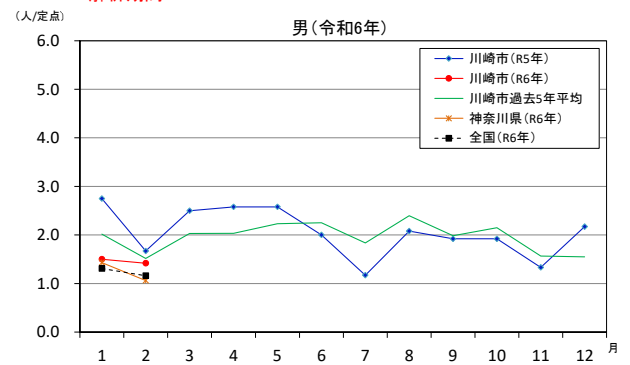
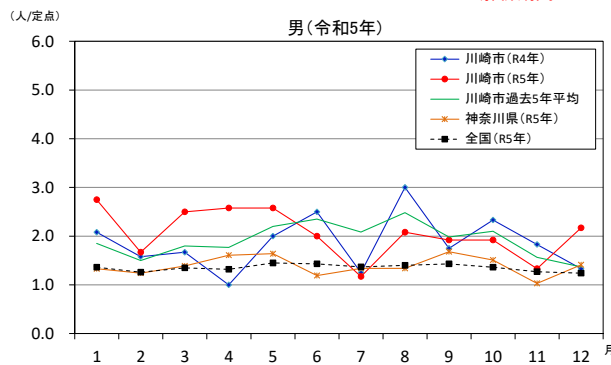
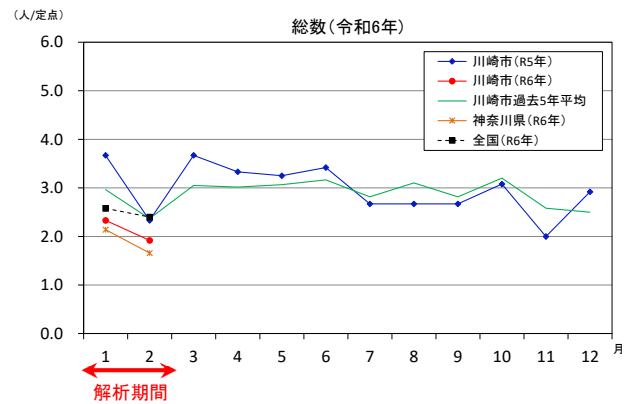
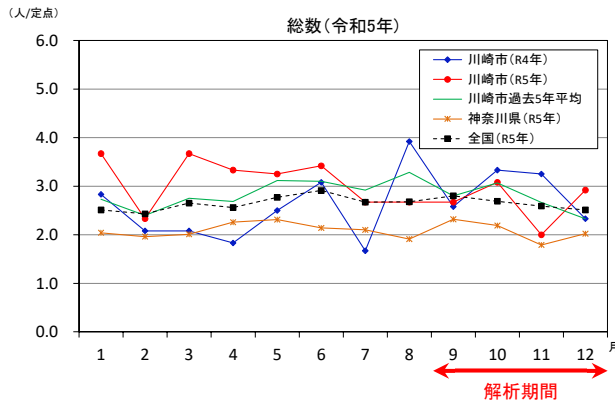
<性感染症定点対象疾患>

※新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年から令和4年においても、報告数に著しい変化がみられなかったため、過去5年平均と比較を行った。

性器クラミジア感染症

【川崎市】

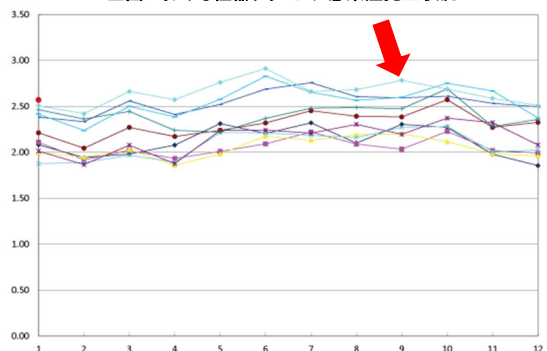
今期は定点当たり 2.49 人の報告があり、過去5年平均の報告数と比較すると 0.91 倍で、例年並みのレベルで推移しました。



【全国及びその他】

全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。

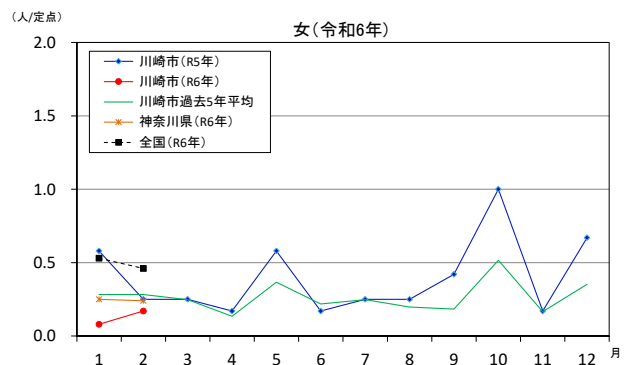
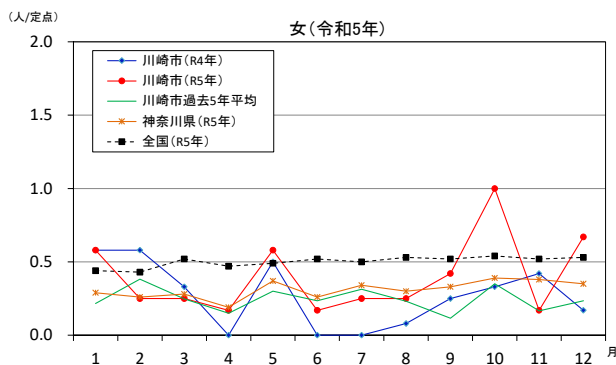
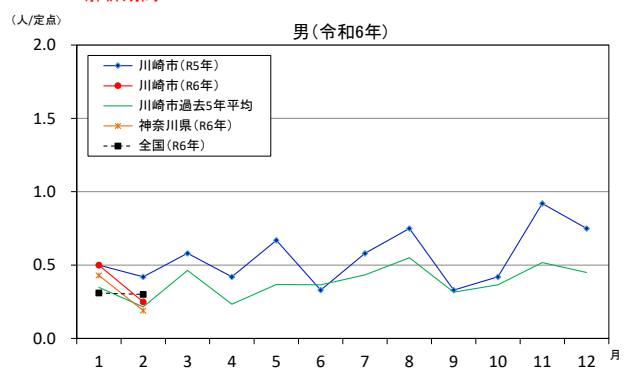
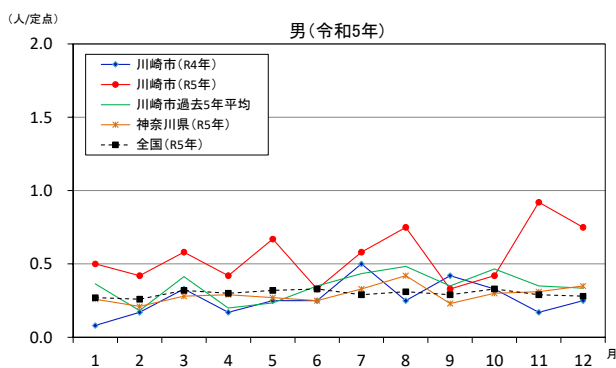
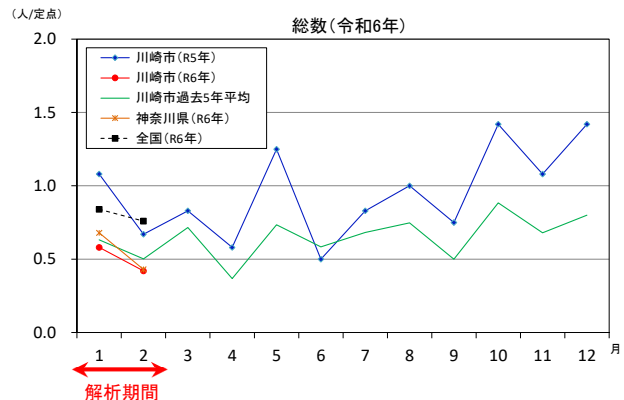
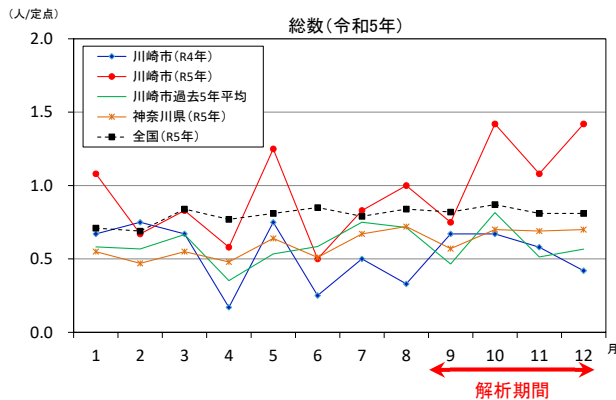
全国における性器クラミジア感染症発生状況



性器ヘルペスウイルス感染症

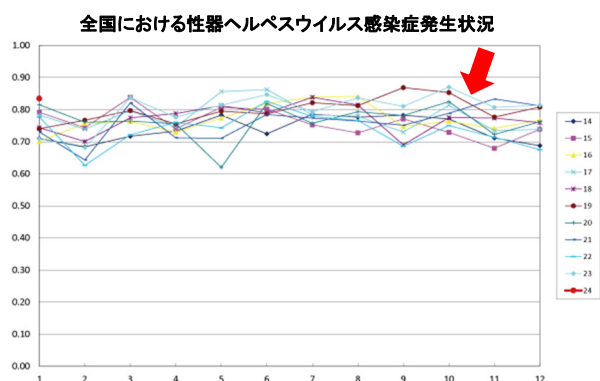
【川崎市】

今期は定点当たり 0.94 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.64 倍で、例年より高いレベルで推移しました。男性は 11 月、女性は 10 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

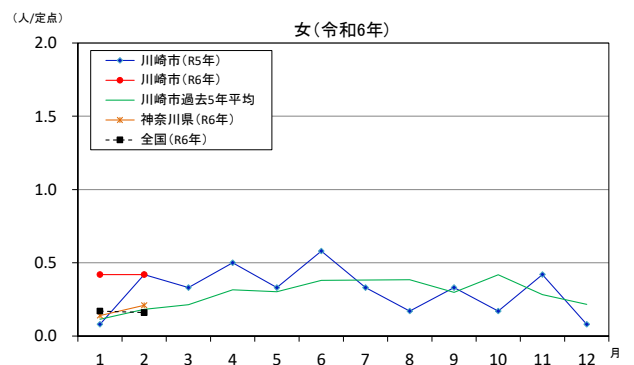
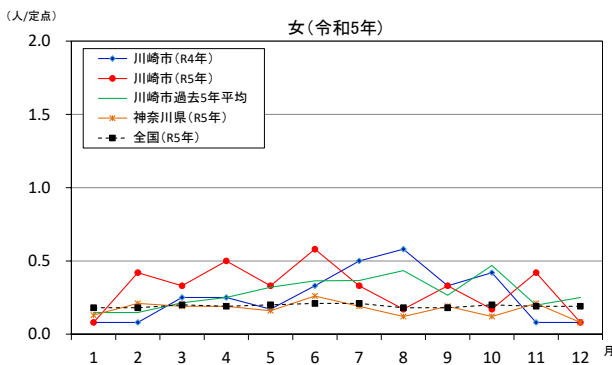
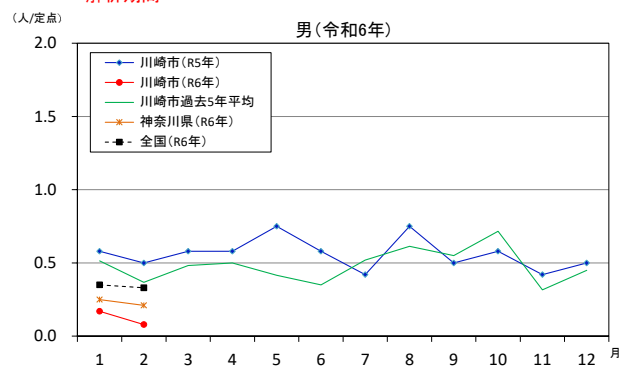
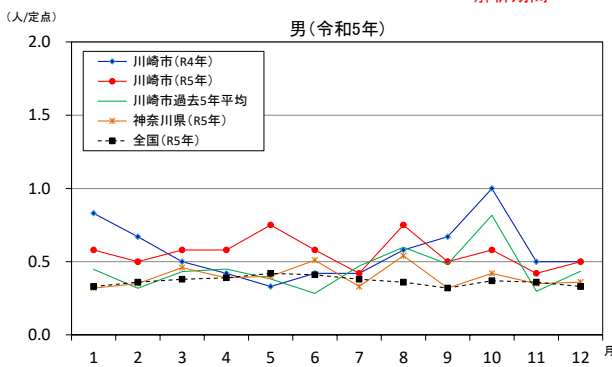
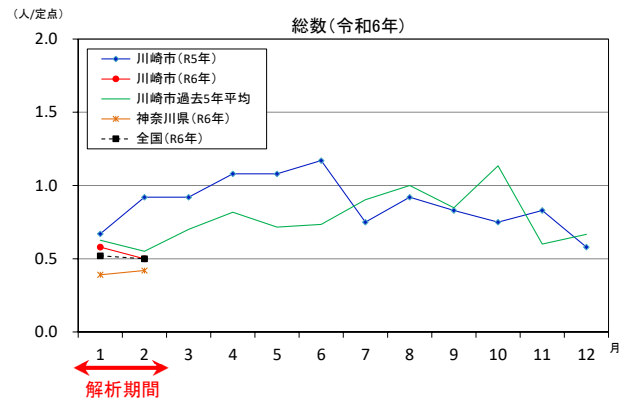
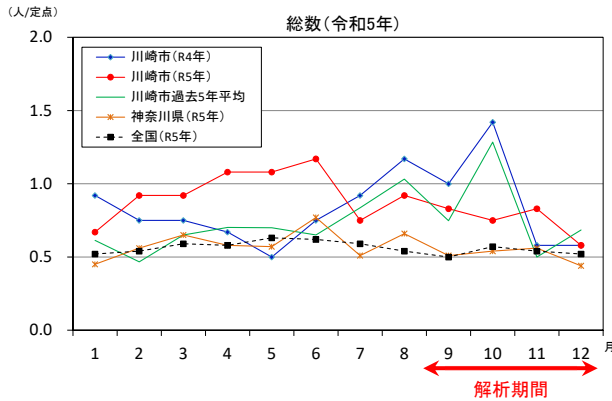
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



尖圭コンジローマ

【川崎市】

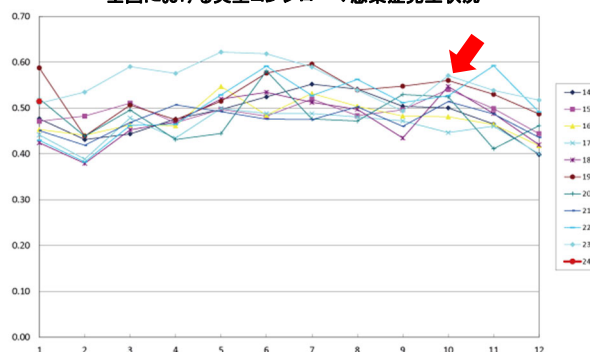
今期は定点当たり 0.68 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.93 倍で、例年並みのレベルで推移しました。



【全国及びその他】

全国的にも例年並みのレベルで推移しました。

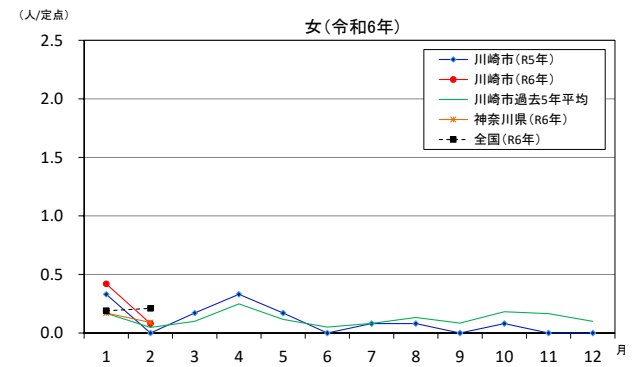
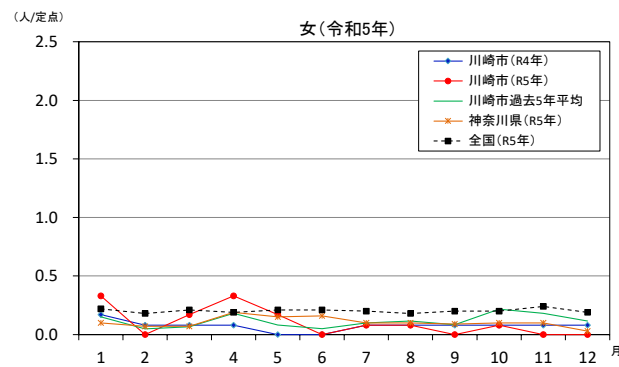
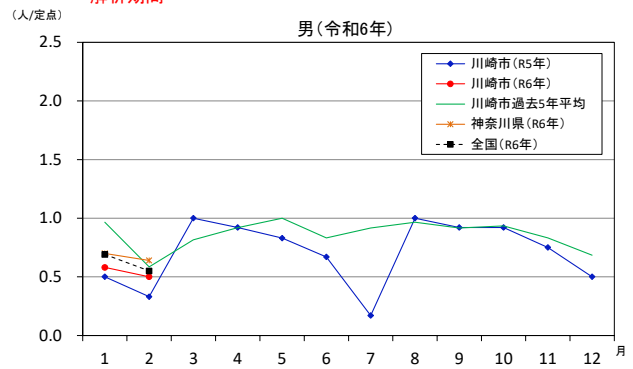
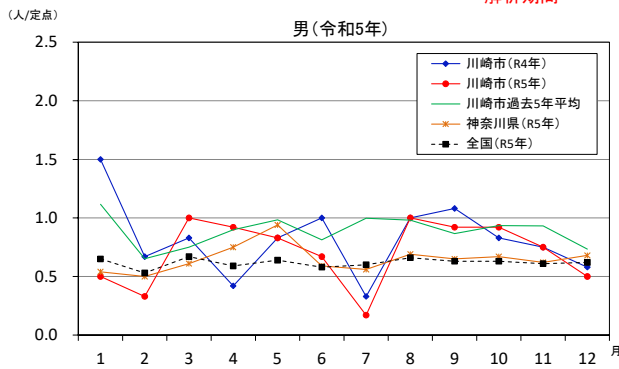
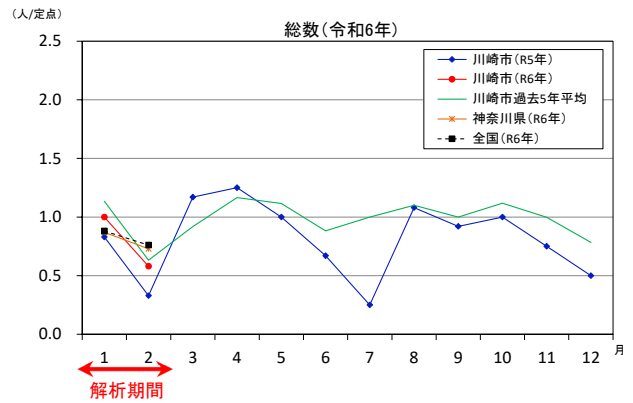
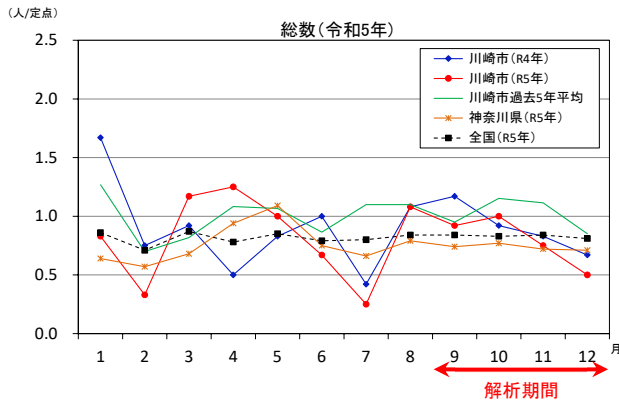
全国における尖圭コンジローマ感染症発生状況



淋菌感染症

【川崎市】

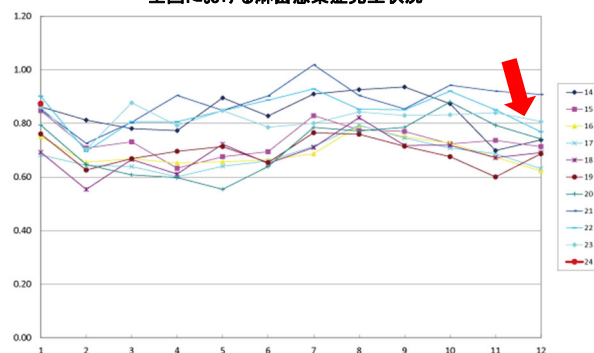
今期は定点当たり 0.79 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.81 倍で、例年並みのレベルで推移しました。



【全国及びその他】

全国的にも例年並みのレベルで推移しました。

全国における淋菌感染症発生状況



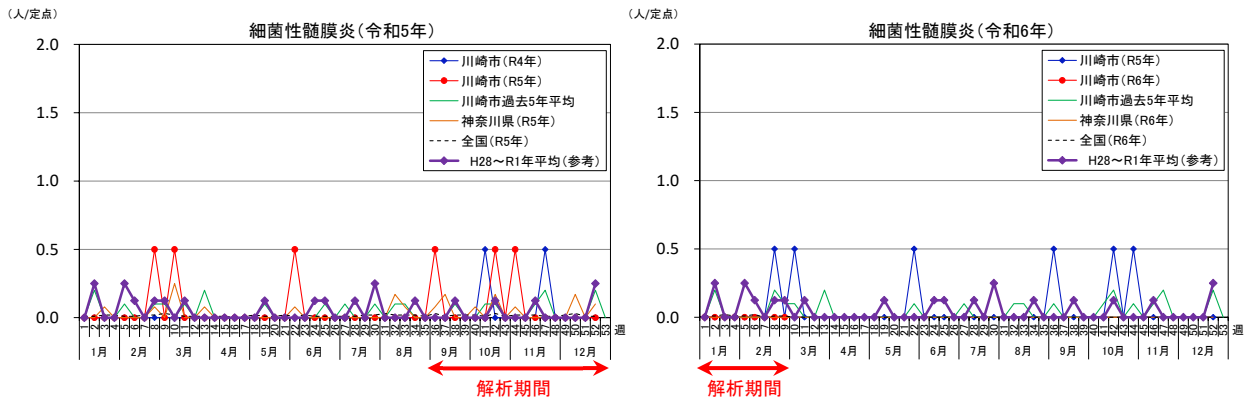
< 基幹定点対象疾患（週報） >

※令和2年から令和4年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、報告数が著しく減少したため、平成28年から令和元年の平均と比較を行った。

細菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は定点当たり 0.06 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.00 倍で、例年並みのレベルで推移しました。令和 5 年第 36 週、第 42 週及び第 44 週に各 1 件の報告がありました。

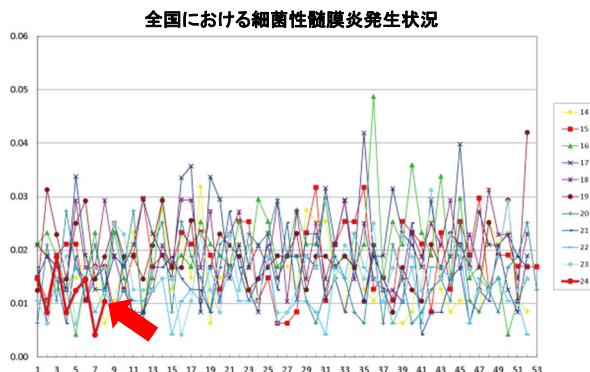


なお、基幹定点医療機関において検出された病原菌は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	届出週	検査材料	検査結果
川崎区	男	45	第 36 週	髄液	<i>Cutibacterium acnes</i>
川崎区	女	50	第 42 週	髄液	<i>Streptococcus agalactiae</i>
宮前区	男	69	第 44 週	髄液	meticillin-susceptible <i>Staphylococcus aureus</i>

【全国及びその他】

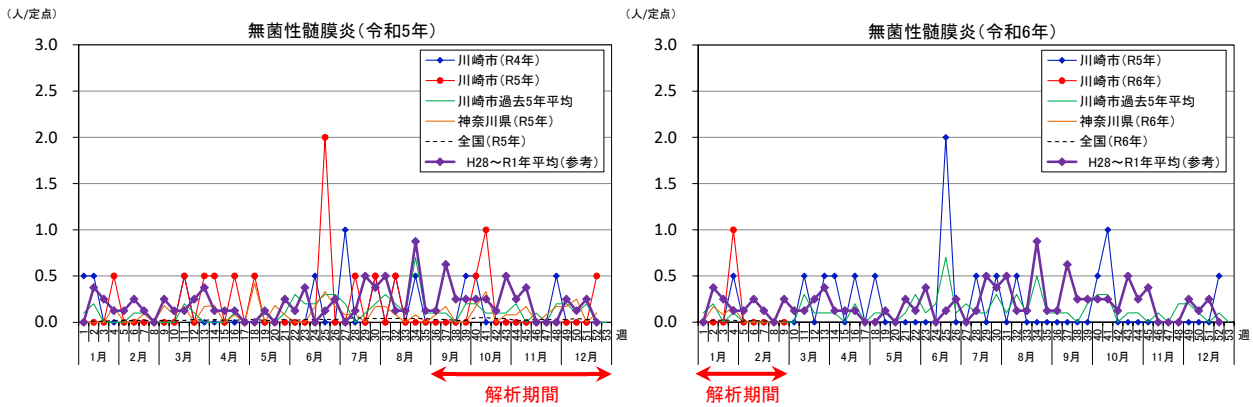
全国的にも例年並みのレベルで推移しました。



無菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は定点当たり 0.12 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.74 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。

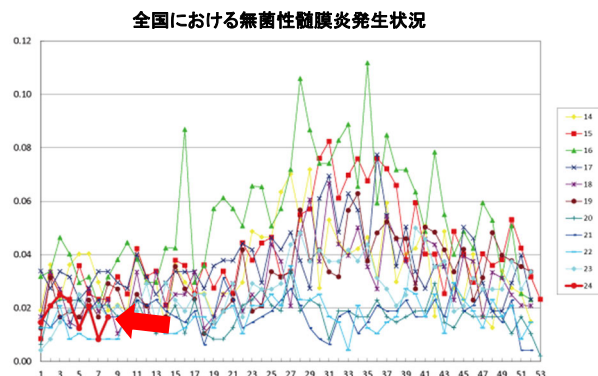


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	男	72	R5.10.4	髄液	水痘・帯状疱疹ウイルス
川崎区	男	59	R5.10.5	髄液	陰性
川崎区	男	32	R5.10.15	髄液	陰性
川崎区	男	71	R5.10.9	髄液	陰性
川崎区	女	48	R6.1.7	髄液	陰性
川崎区	男	27	R6.1.27	髄液	陰性

【全国及びその他】

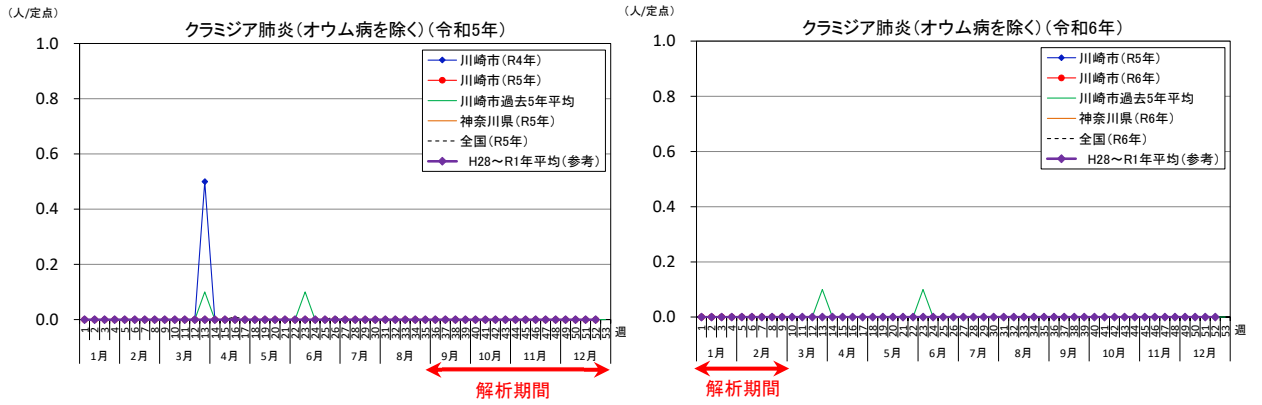
全国的にも例年よりやや低いレベルで推移しました。



クラミジア肺炎(オウム病を除く)

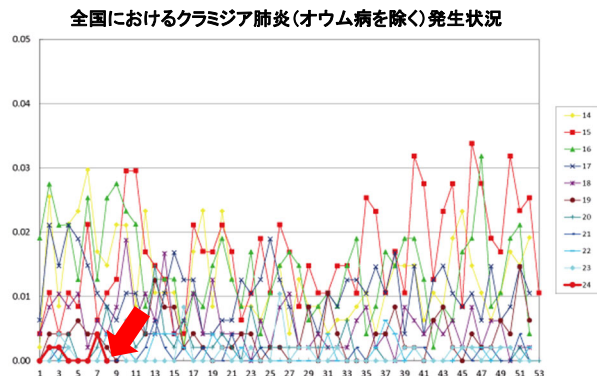
【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

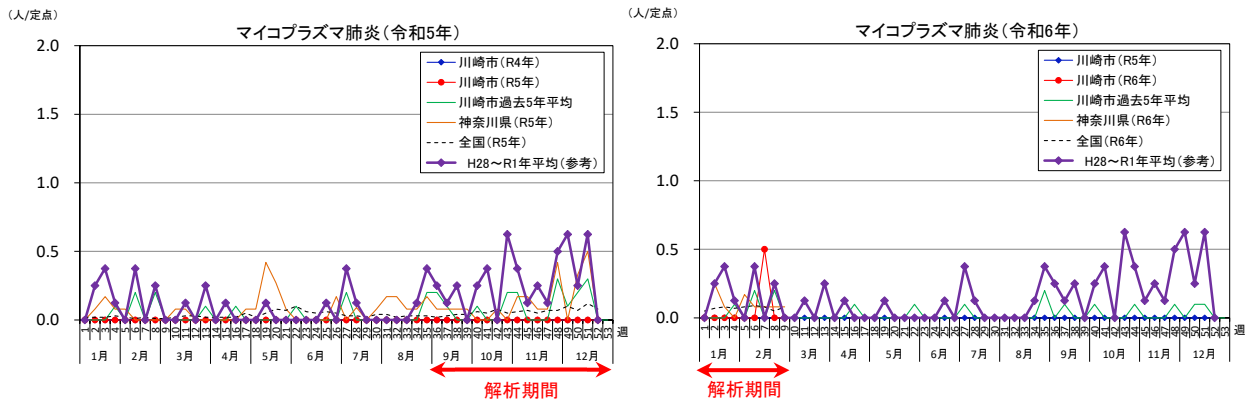
全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。



マイコプラズマ肺炎

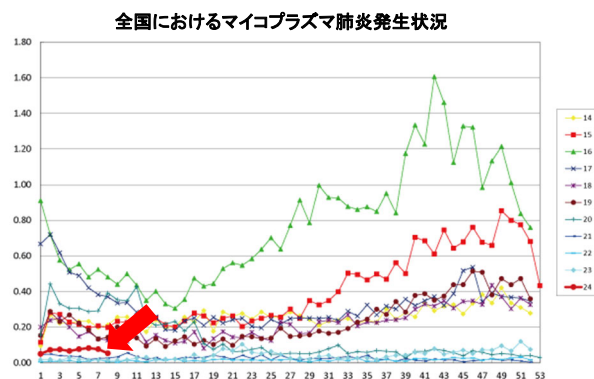
【川崎市】

今期は定点当たり 0.02 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.09 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

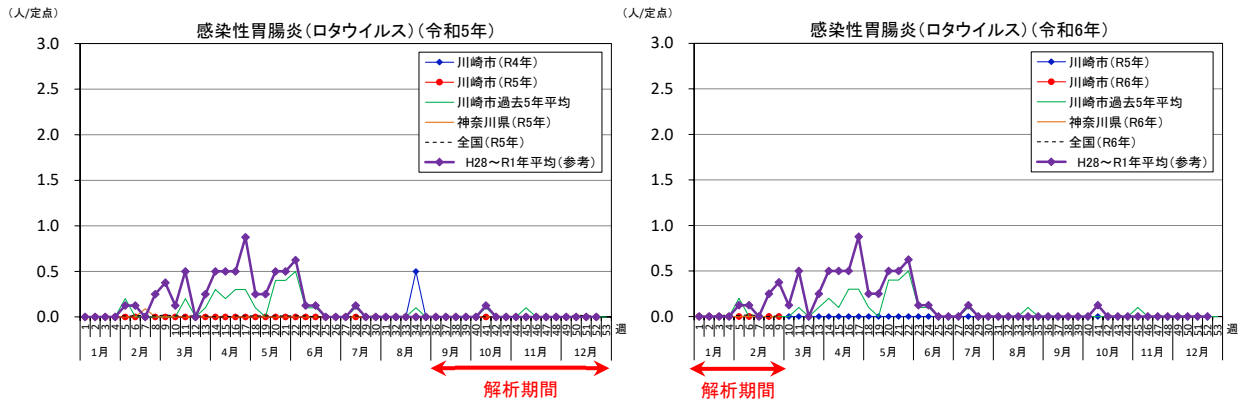
全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

【川崎市】

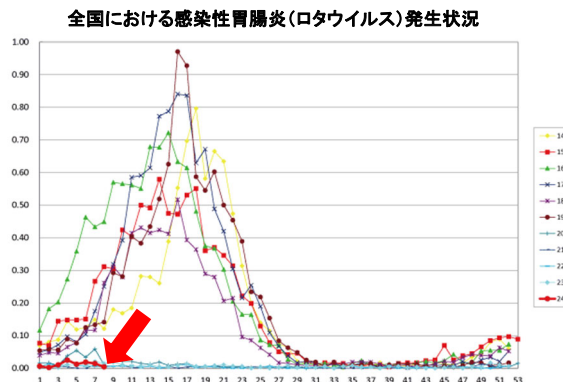
今期は報告がありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。



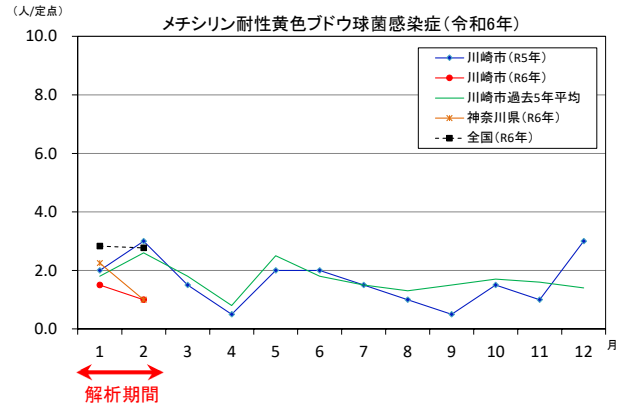
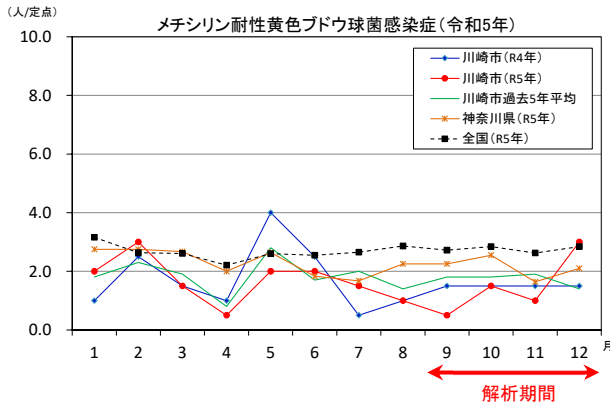
<基幹定点対象疾患（月報）>

※新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年から令和4年においても、報告数に著しい変化がみられなかったため、過去5年平均と比較を行った。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

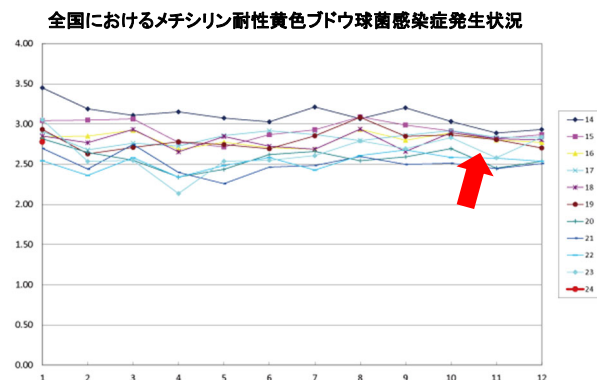
【川崎市】

今期は定点当たり 1.42 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.75 倍で、例年並みのレベルで推移しました。



【全国及びその他】

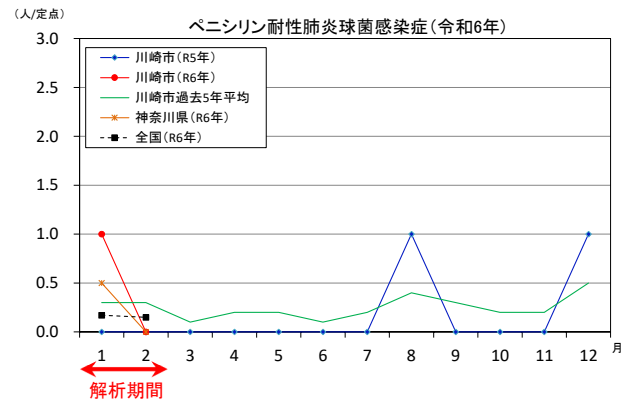
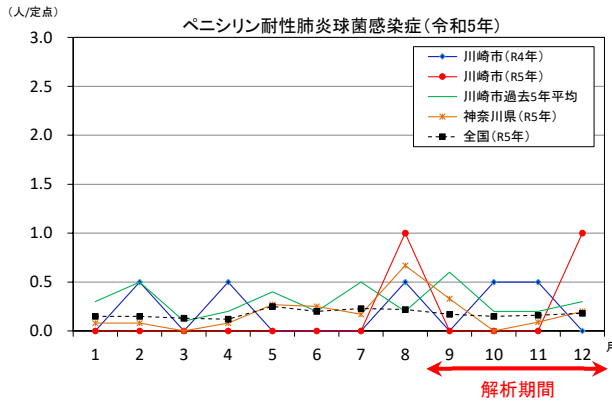
全国的にも例年並みのレベルで推移しました。



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

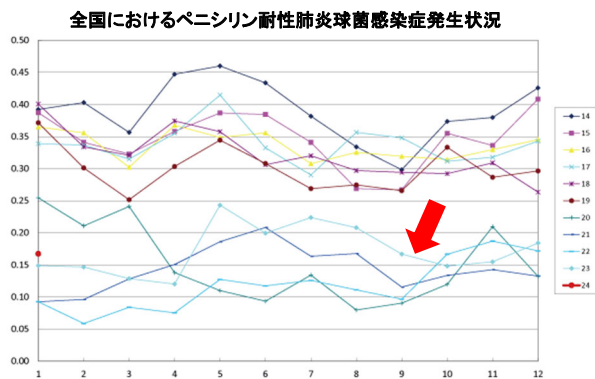
【川崎市】

今期は定点当たり 0.33 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.04 倍で、例年並みのレベルで推移しました。令和 5 年 12 月及び令和 6 年 1 月に各 1 件の報告がありました。



【全国及びその他】

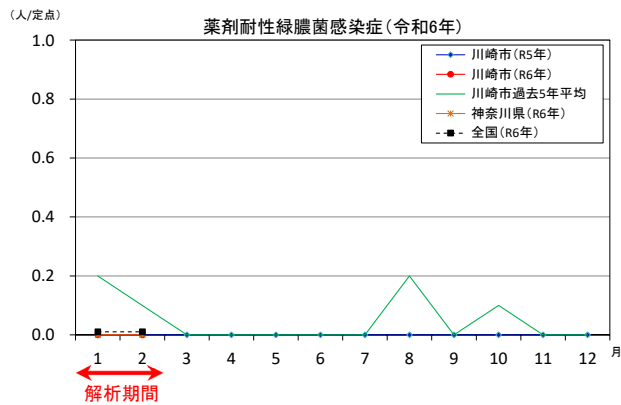
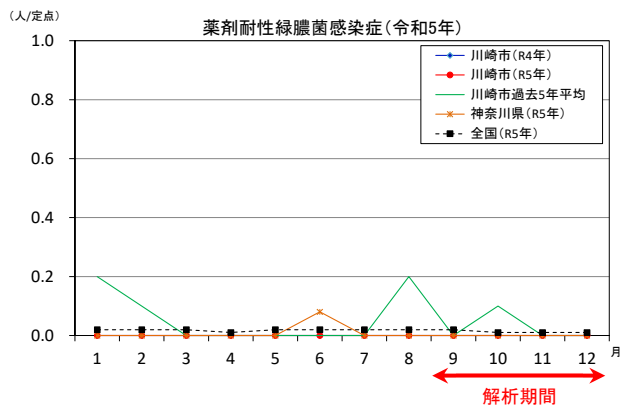
全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。



薬剤耐性緑膿菌感染症

【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

全国的には例年より低いレベルで推移しました。

